

野球の教訓をビジネスに生かす

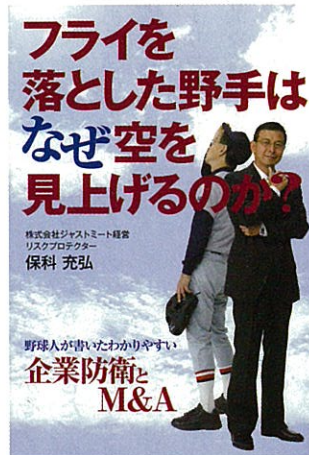
text by 新楽直樹、本誌編集部

スポーツを極める道のりには、人より良く生きるための理論や教えが数多く隠されている。しかし、スポーツで頂点を極めた人が皆、人生訓の良き語り部かという点でそうではないようだ。テレビを見てると品性を疑いたくなるような発言をする「名選手」やOBをよく見かける。「天は二物を与えず」という言葉が身に染みる瞬間だ。

裏を返せば、実社会に役立つエッセンスをスポーツから抽出し、さらに言葉に置き換えられるような人は貴重存在なのだ。著者はその一人であり、試合で得た気づきや、名選手のプレー、

名シーンから学んだ教えを、マネジメント、人事、リスク管理といった会社の問題に分かりやすく当てはめた。

例えば、平凡なフライにイレギュラー（予測できない打球の変化）はあり得ないのに、エラーをした直後、無意識に空を見上げている選手がいる。まぶしかったのか雲が重なったのかなどと「意味のない言い訳」を考えているのだと著者は言い、その姿から教訓を導き出す。仕事の失敗や目標の未達成に対し、あなたは空を見上げていないか、自分の立場やプライドを守ろうとしても会社は守れないぞと檄を飛ばす。



『フライを落とした野手はなぜ空を見上げるのか?』

保科充弘著
幻冬舎ルネッサンス
1365円

著者は慶応義塾大学の準硬式野球部で活躍した後、銀行勤務を経て独立、現在はM&A（合併・買収）アドバイザーとして活躍中。野球を通じて体得した気づきや教訓を、企業人が直面する課題に当てはめてアドバイスする。



新刊

日経ビジネス Associé

2008年5月6日発行（毎月2回第1・第3火曜日発行）第7巻第10号通巻154号 2002年10月3日第三種郵便物認可

アソシエ 05.06
2008